

3年D組 国語科 単元設計・学習指導案

指導者 兵頭 宣彦

1 日時（場所） 令和6年2月16日（金）13:50～14:40（3年D組教室）

2 教科領域別研究テーマ

言葉による深い学びを通して「エージェンシー」を育む学習指導と評価の工夫

3 研究テーマ設定の理由

「エージェンシー」とは、変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力だと定義されている。今後、よりよい未来社会を築いていく上で必要となる「エージェンシー」を国語科の授業の中でも高めていくことができるよう、教師が学習指導や評価の在り方を工夫していくことが大切であると考え。

昨年度は、「単元を構想する場面」「授業を行う場面」「振り返りを行う場面」において、生徒の学びや課題、意思決定について生徒と教師、生徒と生徒が共有したり、生徒自身が自覚したりすることができるよう工夫した学習活動を展開してきた。成果としては、生徒と教師、生徒同士の対話を通して、生徒自身が単元や授業の見通しを持って、主体性を発揮しながら日々の学習に取り組むことができるようになった。また、課題としては、授業での振り返りを効果的に活用できなかったことが挙げられる。

生徒には、授業での振り返りを通して、自分の成長や変容を自覚するとともに、次の授業・単元での学びにつなげさせたい。教師は、授業での振り返りを生徒にフィードバックするとともに、次の授業や単元の構想につなげたり、学びの見取りにつなげたりしたい。したがって、今年度はこれまでの研究を継続するとともに、生徒の振り返りを生徒自身と教師が次の授業・単元に活かせるようにしたいと考え、本研究テーマを設定した。

4 単元設計（単元名：「我ら文学鑑定団」）

(1) 単元目標

○理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、慣用句や熟語について理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1)イ

○文章の構成や展開、表現の仕方について評価することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)ウ

○言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文学的文章を理解するために必要な語句の量を増やし、慣用句や熟語について理解を深め、文章を評価する中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 (1)イ	文学的文章の構成や展開、表現の仕方について評価している。 (C(1)ウ)	語感を磨き、語彙を豊かにするとともに、文学的文章の構成や展開、表現の仕方について評価する中で、他者と協働しながら、粘り強く課題解決しようとしている。

(3) 指導計画（全 8 時間）

時間	ねらい・学習内容	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	問題シナリオの提示 ・解決すべき課題を知ることを通して、単元の見通しを持つことができる。（一斉） ・「鼻」「仙人」の初読の感想をまとめることを通して、文章の特徴を理解することができる。（個人）	態 知		・単元の学習を通して、どのような資質・能力を高めるかを理解している。（「学びの羅針盤」） ・語句の意味や文章での使われ方を確認し、それぞれの文章の特徴を理解している。（「学びの羅針盤」）
2	関連する事実の特定 ・解決すべき課題と照らし合わせながら「鼻」「仙人」を再読することを通して、中学3年生が文学的文章を学ぶ意義について考えることができる。（小集団）	思		・3年生で学んだ文学的文章や、そこでの学びを振り返り、文学的文章を学ぶ意義について考えている。また、それが「鼻」「仙人」のどちらを学ぶことで得られそうか、検討している。（ワークシート）
3	仮説の生成 ・課題に対する仮説を設定することを通して、解決の筋道をつかむことができる。（小集団） 不足する知識の特定 ・班での対話を通して、「鼻」「仙人」の鑑定をする上で、どのような読み取りが必要かを確認することができる。（小集団）	思 知		・前時の学びを基に、仮説を設定し、課題解決の筋道をつかむことができている。（ワークシート） ・仮説を基に「鼻」「仙人」の登場人物や場面、語り手の設定の仕方、表現や描写の効果など、読み取る上で必要となる〈分析の観点〉を明確にしている。（ワークシート）
4 5	自己主導型学習 新たな知識の応用 ・〈分析の観点〉を基に読み深めたり対話したりすることを通して、「鼻」「仙人」を評価することができる。（個人→小集団）	思 態		・〈分析の観点〉を基に「鼻」「仙人」を読み直し、構成や展開、表現について評価している。（個人ワークシート） ・発表のための資料を作成し、同じ作品を選んだクラスメイトと内容を検討したり、修正したりしようとしている。（発表資料）
6 7 本時	知識の一般化 ・前時までの学習成果を生かして、自分たちの鑑定を発表することができる。（一斉） ・各班の発表を基に対話することを通して、課題解決に迫ることができる。（一斉）	知 思	○ ○	・文章中の語句や表現を使って、自分たちの評価を発表している。（発表・発表資料）（支援）評価の根拠として、文章中の語句や表現を具体的に挙げるよう助言する。 ・前時の発表を基に「鼻」「仙人」の構成や展開、表現についての評価を検討している。（発表・「学びの羅針盤」）（支援）評価の根拠として〈分析の観点〉を使うよう助言する。
8	評価 ・学びを振り返ることを通して、仮説の検証が課題解決につながったかを検討することができる。（全体→個人）	態	○	・本単元の学習を振り返り、仮説の検証が課題解決につながったかを検討しようとしている。（「学びの羅針盤」）（支援）〈分析の観点〉に着目した読み深めが、課題解決につながったかを振り返らせる。

(4) パフォーマンス課題

評堂出版株式会社は、中学校3年生の次期教科書に、芥川龍之介の「鼻」「仙人」のどちらかを採用しようと検討している。3年生の文学教材として、どちらの作品がふさわしいだろうか。私たちは、その検討メンバーに選ばれ、後日の鑑定会議に向けて鑑定資料の作成を任された。私は、3年間の学習を生かして設定した〈分析の観点〉を基に二つの作品を読み比べ、鑑定会議で発言するための準備をすることにした。

5 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒 32 名（男子 16 名，女子 16 名）は国語の授業に大変意欲的に取り組んでいる。特に文学的文章への関心は高く，自分たちで問いを立て，言葉や表現を手掛かりにしながら対話することを通して，主体的に読み深めることができる。一方で，課題として一つの答えや正解にこだわり過ぎるところが挙げられる。文学的文章は，解釈が読み手に委ねられている部分があることが魅力の一つである。義務教育最終段階にいる生徒たちゆえに，委ねられている部分にこだわり過ぎるのではなく，多様な解釈を生むきっかけとなる言葉や表現に向き合わせたい。作者がこだわり抜いた言葉や表現について気付き，語り合うことを通して，文学的文章の魅力を味わわせたいと考える。

(2) 単元について

本単元で取り扱う「鼻」は，文豪夏目漱石に賞賛され，芥川が文壇デビューするきっかけとなった作品である。「今昔物語」や「宇治拾遺物語」に出てくる「禅智内供（ぜんちないぐ）」（両作品においては「禅珍内供」）が，この話の中心人物である。高僧であるはずの内供が自分の鼻の大きさや形に強いコンプレックスを抱き，周囲の目を気にするナイーブな姿が，細部までこだわり抜かれた表現で描かれている。また特筆すべきは，その語り手の設定の仕方である。地の文でナレーションが語るのは当然であるが，「鼻」では，あえて「—（ダッシュ記号）」を用いて語り手に語らせる部分が出てくる。そしてこの語り手は，内供が「何となく不快」と感じるものを「傍観者の利己主義」と難なく説明してしまう。登場人物を超える全能な存在として描かれる語り手が，読み手をこの作品世界に引き込み，読みの可能性を広げる上で大きな役割を果たしていると言える。

一方「仙人」は，「鼻」の前年に執筆され，雑誌「新思潮」に掲載されるも，当時は単行本に収められなかった。したがって，芥川作品の中では有名と言い難い作品である。貧しく日々の生活を送るのに精いっぱいな中心人物「李小二（りしょうじ）」が，「仙人」との出会いを経て大きな富を得るという話である。一読すると，ハッピーエンドの寓話のようである。しかし，細部を読み込むと，明るい結末の作品とは言い切れないことに気付かされる。李の内面的苦悩が富によって解決されたかは一切触れられていないのである。芥川はこの中で，まるで文学的実験を行うように，構成や表現，人物，文体，語りに工夫を凝らして書いている。その工夫により，読み手は度々違和感を覚えて立ち止まりながら，作品の中に引き込まれていく。また，終盤でとぼけたように「作者」が顔をのぞかせるのも特徴的である。時に現在進行形で語られる，それまでのナレーションを思わず読み返してしまう仕掛けである。

両作品ともに，芥川によって計算し尽くされた，多様な解釈を生む工夫が凝らされた作品と言える。生徒たちには，これらの作品を主体的な読み深めたり，評価したりすることを通して，作者がこだわり抜いた言葉や表現に気付かせ，文学的文章を読むことの魅力に迫らせたい。

(3) 指導について

生徒たちの「エージェンシー」を育むために，本単元では PBL（Problem-Based Learning）を取り入れた学習指導を行う。PBL は，実世界で直面する問題やシナリオの解決を通して，基礎と実世界とをつなぐ知識の習得，問題解決に関する能力や態度を身に付ける学習を指す。PBL は以下の学習サイクルで行われる。

展 開	分 類	内 容
Phase1	問題の 定型化と分析	問題シナリオの提示 (Problem Scenario)
Phase2		関連する事実の特定 (Identify Facts)
Phase3	自己主導型学習	仮説の生成 (Generate Hypotheses)
Phase4		不足する知識の特定 (Identify Knowledge Deficiencies)
Phase5		新たな知識の応用 (Apply New Knowledge)
Phase6		知識の一般化 (抽象化) (Abstraction)
Phase7	—	評価 (Evaluation)

Hmelo-Silver (※) は，PBL の効果として次のようなものを挙げている。「①広く柔軟な知識基盤を構成すること。」「②効果的な問題解決スキルを身に付けること。」「③自己主導的な学習スキルを身に付けること。」「④効果的なコラボレーションスキルを身に付けること。」「⑤学ぶこと自体について興味を持つこと。」これらは，本研究で目指す「エージェンシー」の育成につながるものだと考える。したがって，PBL の学習サイクルを本単元の指導計画を反映させた。

また単元を通して生徒の学びの変容を見取るために，ロイロノート上で OPP シートを活用する。OPP シートの共有により，生徒も教師もその日の学びや振り返りを手元で確認することができる。そして，その学びや反省を次の授業につなげることが可能となる。

(※ Problem-Based Learning: What and How Do Students Learn? (2004))

6 本時の指導（7／8時間）

(1) 主題

「鼻」「仙人」を鑑定しよう。

(2) ねらい

各班の発表を基に「鼻」「仙人」の構成や展開、表現についての評価を検討することができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 学習課題をつかむ。(一斉)	1	3年生が学ぶ教材として「鼻」と「仙人」のどちらがふさわしいだろうか？	
2 前時の学びを振り返る。 (1) 発表内容で気になった点を挙げる。 (全体)	14 (4)	○前時の発表内容で気になった点について発表しましょう。 ・どちらの作品も、明るい結末だと解釈した人と、暗い結末だと解釈した人がいたのはなぜだろう。 ・「鼻」の内供と「仙人」の李で共通点はないだろうか。	○焦点を絞った対話にするために、前時の発表で気になった対立やズレに着目させる。
(2) (1)で気になった点について話し合う。 (個人) ↓ (全体)	(10)	○出てきたことについて話し合いましょう。 ・〈表現〉に着目して読むか、〈視点〉に着目して読むかで、明るい暗いの印象が変わってくる。 ・内供は外見への苦しみ、李は生活への漠然とした苦しみを抱える〈人物〉として描かれている。「人生への苦しみ」という点で共通するのではないか。	○自分の考えを形成させるために、個人の時間を確保する。 ○解釈の違いで終わらせないために、〈構成〉〈表現〉〈視点〉〈人物〉〈文体〉の五つの観点を基に、対立の原因を分析させる。
3 「鼻」と「仙人」を評価する。(全体)	25	○3年生が学ぶ教材として「鼻」と「仙人」のどちらがふさわしいでしょうか？ 【「鼻」派】 ・〈構成〉〈表現〉〈人物〉〈文体〉など、様々な観点において、「仙人」よりも教材としてふさわしいと感じる。 ・多様な解釈を引き出す語り手が設定されているからこそ良い。 ・「仙人」は、冒頭と結びで曖昧な〈表現〉で書かれているところが残念だ。 【「仙人」派】 ・〈人物〉の心情の読解につながる描写や、比喩などの〈表現〉は、「仙人」の方が優れていると思う。 ・「鼻」の語り方は、中学生にとっては難しい。〈視点〉という観点ではマイナスだと思う。	○自分の主張を明確にした上で話し合わせるために、【「鼻」派】か【「仙人」派】かを視覚的に提示する。 (ロイロノート) ○聞き手に理解しやすい発表にするため、主張に即した「理由付け」「根拠となる事実」を述べさせる。 ○つながりある議論をするために、「理由付け」や「根拠となる事実」に疑問がある場合は出させる。 ◎前時の発表を基に「鼻」「仙人」の構成や展開、表現についての評価を検討することができる。 (発表・「学びの羅針盤」)
4 本時の学びを振り返る。(一斉)	10	○話し合いについて講評をいただきましょう。 ・【「□□」派】の方が〈分析の観点〉を駆使して、論理的に理由を述べていることができていた。	○客観的な評価にするために、大学の先生からアドバイスをいただく。 ○ねらいに沿った評価とするために、〈分析の観点〉に触れていただく。

7 授業研究の視点

○この単元の学びは、これまでの国語科授業での学びや振り返りを生かすものになっていたか。

○〈分析の観点〉を基にした対話は、生徒たちの読みの深まりにつながったか。